

直播栽培の今昔！(古くて新しい技術)

直播栽培の全盛期

無芒品種「坊主」と「たこ足直播機」により、当時としては1時間当たり5aのは種が可能でした(慣行苗の移植は、0.7a程度)。

1930年代には北海道では中心的な栽培法となりました。

しかし、畑苗代移植栽培が普及し安定性などから1970年代に、姿を消しました。



※たこ足直播機による種風景

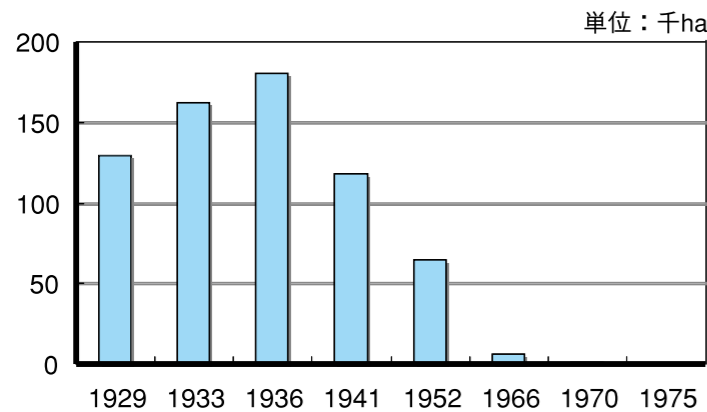
新しい直播栽培

1980年頃からカルパーの使用による苗立ちの向上、湛水直播後の落水によるカルパー使用量低減等の技術が実用化。1986年に乾田は種早期湛水栽培が北海道農業試験場により実用化されました。

時代の要望とともに、低コスト・省力化等の栽培が増加しています。



※レーザーレベラーによる均平作業



図一-1 直播栽培面積の推移(北海道)

1975年から再び作付面積が50haを超えるのは1992年以降です。

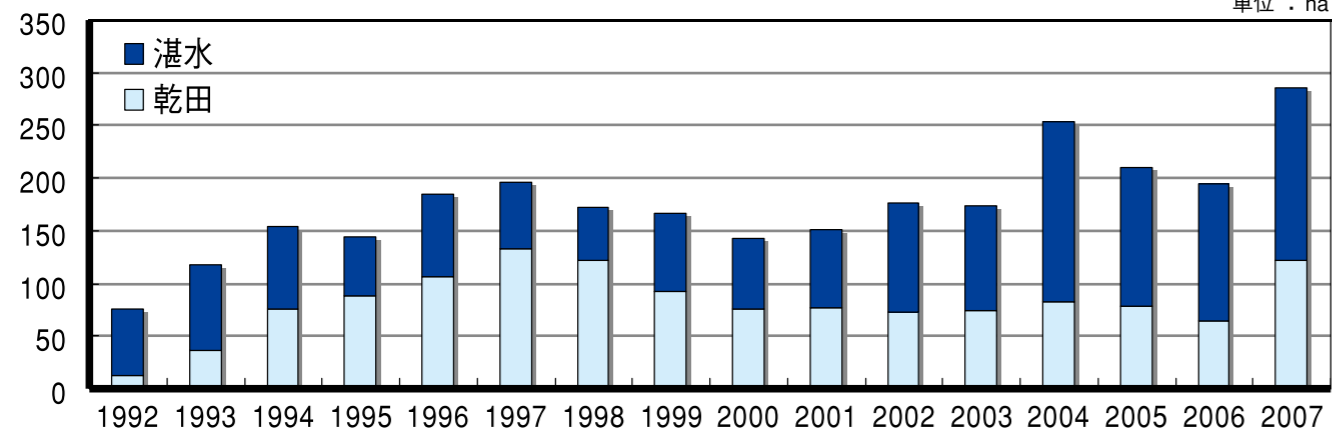
空知地方は、まず美唄を中心に作付けが始まり、岩見沢市内も作付けが進みました。

機械の共同利用などの広域的なつながりにより、これからは大きく作付けが進む見込みです。

表一-1 いわみざわ地域の直播栽培面積の推移

年次	湛水直播		乾田直播		合計		一戸当り平均面積 ha
	面積 ha	戸数 戸	面積 ha	戸数 戸	面積 ha	戸数 戸	
2006	13.3	3	2.4	4	15.7	7	2.2
2007	11.8	7	11.5	3	23.3	10	2.3
2008	27.8	14	26.2	23	54.0	37	1.5

単位：ha



図一-2 北海道の直播栽培面積

いわみざわ地域は大地の星で！

1. 大地の星の特徴

- (1) 多収で、いわみざわ地域での販売実績がある、業務用米「大地の星」を推奨します。
- (2) 品種の特性を把握し、直播栽培の技術習得を目指しましょう！

表一-2 直播栽培の主要2品種の特徴

大地の星	項目	ほしまる
発芽が強い ◎	発芽力と率	発芽が弱い △
早中 ◎	早晩性(出穂)	早中 ◎
中早 ○	早晩性(成熟)	早晩 ◎
極強 ◎	耐冷性	強 ○
強 ○	葉いもち耐病性	やや弱 △
○	耐倒伏性	○
大粒 ○~◎	形質と収量	大粒 ○~◎
中中 ×	食味	上下 ◎

★ Check Point

直播向きの品種は、「大地の星」「ほしまる」で違いは次の通りです。
 ①「大地の星」は冷凍ピラフ用として需要があります。
 ②「ほしまる」は今後注目すべき、良食味品種です。
 どちらも大粒で千粒重は24~26g程度、早生であり多収品種です。



期待の大粒種

2. 業務用米の位置づけ(大地の星と契約きらら397)

- (1) 泥炭土の地力の高い地帯では、多収を目指せる業務用米の作付をお勧めします。
- (2) 多肥栽培の「契約きらら397」は、通常栽培のきらら397より生育が遅れます。その結果、生育期節及び収量は直播の「大地の星」とほぼ同等です。

表一-3 直播「大地の星」と多肥きらら397の特性

大地の星 (直播栽培)	項目	きらら397 (移植・通常施肥)	きらら397 (移植・多肥傾向)
△	初期生育	○	◎
◎	耐冷性	やや強 △~○	×~△
○	葉いもち耐病性	やや弱 ×~△	×××

※ 契約きらら397: 高蛋白(8%以上) 出荷契約のきらら397のこと

初期茎数が確保できれば、直播「大地の星」の方が気象変動や病気に対して強いと考えます。泥炭土で多収を目指す方は、改めて直播栽培「大地の星」をお勧めします。

3. 「大地の星」の需要

- (1) これまで同様に、一部の業務用米を扱う米穀業者では根強い需要があります。
- (2) 近隣を含めて、供給は減少傾向です。
- (3) 直播栽培の定着により、新たな供給体制を模索していきましょう！

大地の星の需要

需要 12,000ト



供給 7,200ト

※ 平成18年11月9日時点の見込み: 中央農業試験場調べ